

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	栃 木 県
-------	-------

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	栃木県河内郡上河内町立西小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	2	1	8	15
児童数	30	37	33	39	40	44	2	225	

研究の概要

1. 研究主題

一人一人を大切にしながら自ら学ぶ児童の育成を目指して

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年算数及び国語</p> <p>学校全体の取組とするため全学年で実施している。両教科が、児童の学力を支える主要教科であり、本校の実態として児童の学力格差を縮めていく必要があるため。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ</p> <p>個に応じた指導の工夫と改善</p> <p>仮説</p> <p>1. 児童の実態や教材の特性に応じた指導の工夫・改善を行うことにより、児童一人一人の学力を向上させることができるであろう。</p> <p>2. 基礎的なスキルの定着を図ることにより、日々の学習活動を充実させることができるであろう。</p> <p>3. 児童の習熟の度合いにあった教材が提供できれば、意欲的な学習への取り組みを促すことができるであろう。</p>
--------	--

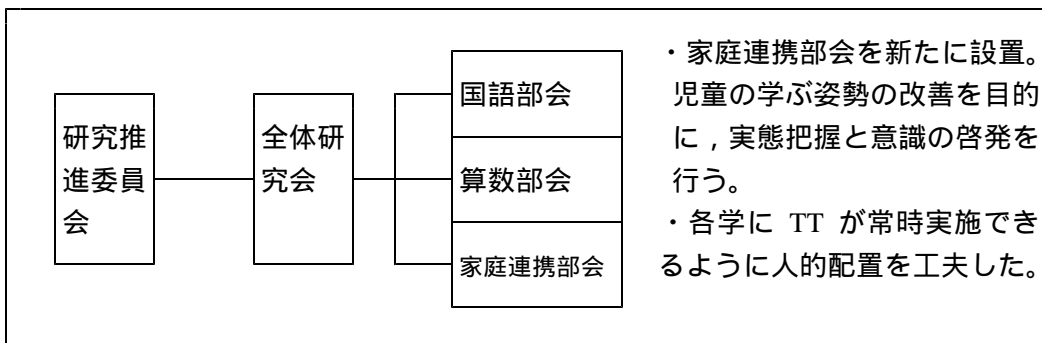
	<p>研究の内容・方法</p> <p>・国語及び算数の両教科部会において教材研究と指導法の研究をするとともに、個に応じた指導法ができるよう教材の整備を行い、授業研究会や日常の教科指導の中で実践し、仮説の検証を行う。</p>
--	---

平成15年度	<p>テーマ</p> <p>児童一人一人にとって分かる授業の創造</p> <p>仮説</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．児童の個性に応じて、指導法・指導体制を工夫することにより、児童に基礎・基本が身に付くであろう。 2．基礎的なスキルを繰り返し、継続的に取り組ませることによりを通して、基礎的な学力を身に付けさせることにより、日々の学習活動を充実させることができるであろう。 3．児童一人一人の学習環境を整えることで、学習への意欲を促すことができ、達成感を味わわせることができるであろう。 <p>研究の内容・方法</p> <p>・分かる授業について分析し、個に応じた教材の開発や学習課題の提示の工夫など指導法の工夫・改善について実践研究を行うとともに、基礎的基本的なスキルの定着と、児童の生活改善のための家庭との連携の在り方について、実践的に検証していく。</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>児童一人一人にとって分かる授業の創造</p> <p>仮説</p> <p>・児童の学びあいのある「分かる授業」を展開することで、自らを高めようとする意欲を高めることができ、主体的な学びを展開することができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>・「分かる授業」に関し具体的な児童像を分析し、それを目指す姿として、指導と評価の一体化を目指す授業改善に取り組む。具体的には、評価の在り方・教材の開発・個に応じる指導体制・児童の基礎作りとしての学習環境の整備に取り組んでいく。</p>
--------	--

* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

・本校の取組に対して、保護者の理解を高めることができた。

アンケート調査結果（保護者）

TTによる指導について「良い」との回答
89.4%（H14） 94.1%（H15）

少人数指導について「良い」との回答
87.6%（H14） 92.0%（H15）

学力向上に対する期待感「期待できる」との回答
48.2%（H14） 67.5%（H15）

・児童の学習に前向きに取り組む姿勢が見られるようになってきた。意識調査の上では、高学年児童にその傾向が明確に見られる。

意識調査（児童）

{	国語の学習は好きかについて「好き」との回答		
	4年	48%（H14）	58%（H15）
	5年	57%（H14）	61%（H15）
	6年	55%（H14）	55%（H15）
	国語の学習は役に立つかについて「役立つ」の回答		
	4年	88%（H14）	88%（H15）
	5年	81%（H14）	95%（H15）
	6年	93%（H14）	95%（H15）
	学習していることが分かりますかについて「分かる」の回答		
	4年	68%（H14）	83%（H15）
	5年	77%（H14）	82%（H15）
	6年	71%（H14）	86%（H15）

算数の学習は好きかについて「好き」との回答

4年 80% (H14) 66% (H15)

5年 60% (H14) 84% (H15)

6年 63% (H14) 77% (H15)

算数の学習は役に立つかについて「役立つ」の回答

4年 94% (H14) 89% (H15)

5年 93% (H14) 100% (H15)

6年 98% (H14) 93% (H15)

学習していることが分かりますかについて「分かる」の回答

4年 72% (H14) 70% (H15)

5年 61% (H14) 90% (H15)

6年 80% (H14) 80% (H15)

- ・粘り強く学習に取り組むようになってきた。
- ・学習した後、成就感、充実感を訴える児童が増えてきている。
- ・教師の授業作りに対する意欲が高まってきた。

2. 今後の課題

- ・深まりのある授業できるようにするため、国語では「聞く・話す」、算数では「解決」の場面に焦点を当てて授業研究に取り組み、児童が互いに話し合い深め合える力の育成を目指していく。
- ・児童の抱える課題を保護者と共有できるようにするため、家庭との連携を深め、児童の生活の改善を図るとともに、児童を支える保護者の意識の啓発を図っていく。
- ・指導と評価の一体化を進めるために、継続且つ確実にできる評価の在り方を検討していく。（「分かる授業」と児童の見取り）
- ・伸びる児童をさらに伸ばすため、発展的な指導の在り方について工夫と改善を図り、児童の意欲の向上を図っていく。

学力等把握のための学校としての取組

- ・定期的な学習状況の調査の実施（年1回：2月上旬〈国語・算数〉）
観点別に学習状況を分析し、指導の反省と今後の指導の在り方の検討資料とする。
- ・国語、算数についての継続的な意識調査（年1回：12月下旬）
教科に対する姿勢や学習態度に関する状況について調査し、指導の反省と今後の指導の在り方の検討資料とする。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・授業研究会の公開（河内郡内教員 その他問い合わせのあった他県教員）
 - 算数3年「わり算」：平成15年6月27日 本校ミーティングルーム
 - 国語2年「お話大好き」：平成15年10月24日 本校ミーティングルーム
 - 算数5年「いろいろな図形の面積」
：平成15年11月21日 本校会議室
- ・講演会（町内教員）
 - 「基礎・基本の定着を図る算数指導の在り方」 木村寛 宇都宮大学教授
 - 「表現学習の方向」 長尾高明 文教大教授
- ・学力向上推進協議会での中間報告：平成16年2月2日：河内教育事務所

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無